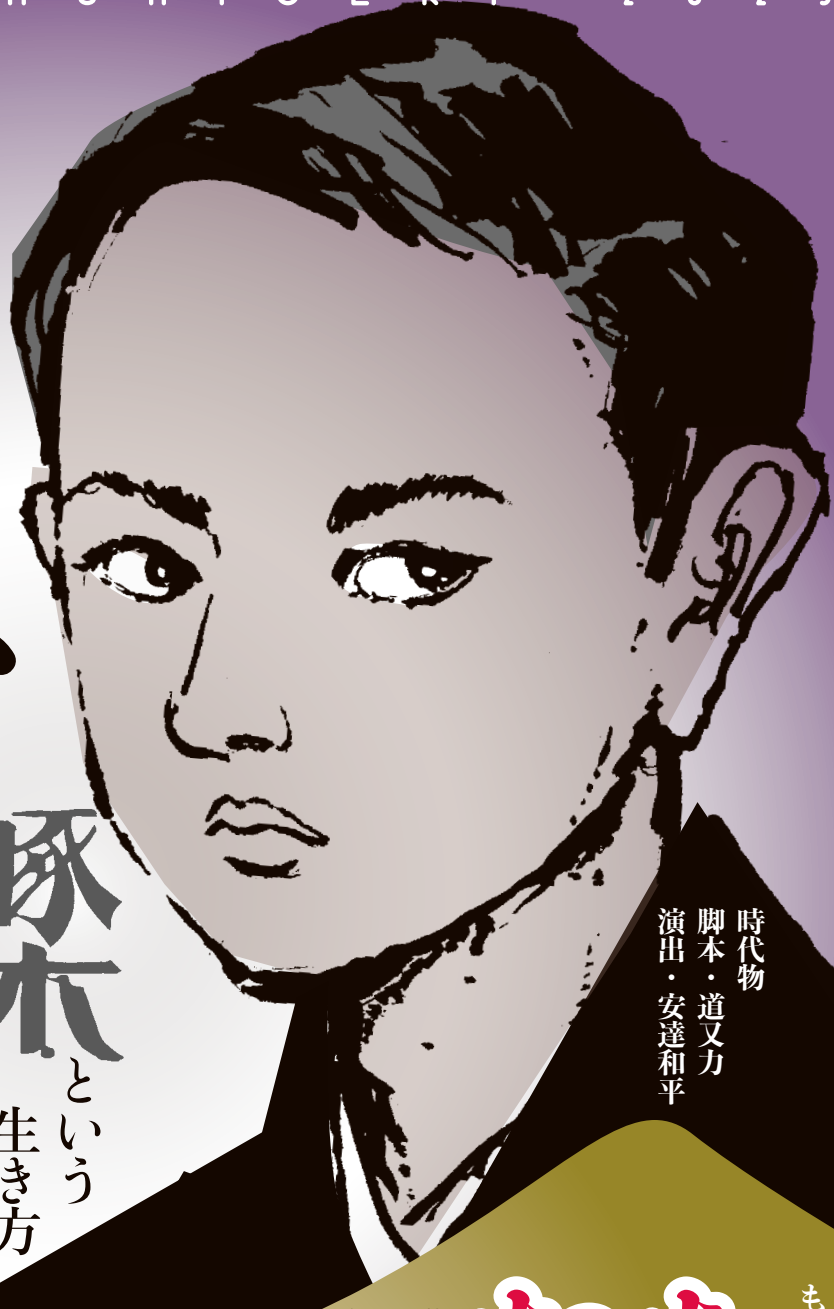


盛岡文士劇

一握の砂

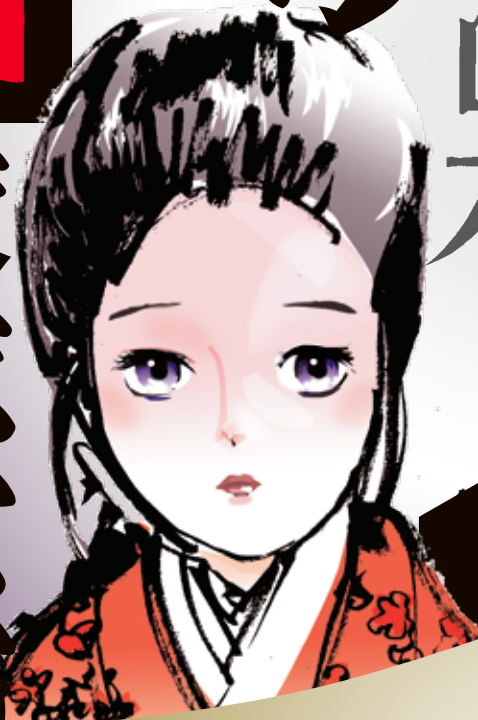
啄木
という
生き方



時代物
脚本・道又方
演出・安達和平

東京公演

Design, Illustration Fumiko Yamazaki



なあのはん

もりおか弁 現代物

落語
「盗人の仲裁」より
脚本演出・藤原正教



(作家)
高橋克彦



(言語学者)
金田一秀穂



(作家)
井沢元彦



(脚本家)
内館牧子



(日本文学研究者)
ロバート・キャンベル



(エッセイスト・コメンテーター)
安藤和津



(作家)
羽田圭介

ほか多数出演

文京シビックホール 大ホール

〒112-0003
東京都文京区春日1丁目16-21
文京シビックセンター1階

令和5年 5月20日(土) 12時30分開演

料金：全席指定 S席6,000円 A席5,000円

チケット販売 / 令和5年 3月15日(水)から

■お問い合わせ
[チケット発券に関すること]
morioka@o-ren.com (オフィス・REN/制作協力)
[上記以外の公演に関すること]
Tel.019-613-8465 (盛岡市役所文化国際課)

取り扱い

「カンフェティ」<https://confetti-web.com/morioka2023> Tel.03-6228-1630 (平日10:00~18:00)
「チケットぴあ」<https://t.pia.jp/> [Pコード:517-560]
「シビックチケット」Tel.03-5803-1111 東京都文京区春日1丁目16-21 文京シビックセンター2階 (10:00~19:00 土・日・祝休日も受付)



盛岡市は世界の「2023年に行くべき52か所」(米NYタイムズ紙)に選出されました!

盛岡文士劇 東京公演

「盛岡市・文京区友好都市提携5周年記念」

◆盛岡文士劇とは

文士劇とは、文士=作家が演じる芝居です。有名なものには文藝春秋社が主催し昭和53年まで上演されていた「文春文士劇」があり、三島由紀夫や石原慎太郎といった著名な文士がこぞって出演し客席を沸かせていました。

盛岡での文士劇は昭和24年に始まり、中断を挟んで平成7年に盛岡在住の直木賞作家、高橋克彦が座長役となり復活。演劇をはじめ文学や芸術が盛んな盛岡の土地柄や大勢のファンに支えられ、復活後の公演回数は今年で27回。現在では毎年公演される文士劇としては日本で唯一、公演回数も日本一とされています。

現代物

「あのなはん」～落語「盗人の仲裁」より～

日曜日の好日一。盛岡で蕎麦屋を営む大林真一・礼子夫婦の元に、次々客が来る。

お見合いの席から逃げ出してきた姪っ子・綾子。店の看板娘・百合は、結婚報告に。同業の蕎麦屋・二代目・俊輔もやってきて、家の中は、にぎやか。

その日、真一は、東京で開催される「盛岡・蕎麦を手繰る会」に行くという。新幹線に遅れると、バタバタと真一は出かけ、家に残った礼子らは、ケーキを食べに外出した。

夕刻。不在の大林家に盗人・鈴木周吉が「ごめんくなんせ」と、上がりこんできた。

物色中、タクシーの停車音が。真一が発見日を間違えて帰ってきた。慌てた周吉は、逃げ場を失い、部屋のドレッサーに隠れるがー。

■脚本・演出：藤原 正教

■方言指導：小野寺瑞穂

■キャスト

畑中美耶子 ※声の出演

大塚 富夫 (IBC岩手放送)

高橋佳代子 (フリーアナウンサー)

神山 浩樹 (IBC岩手放送)

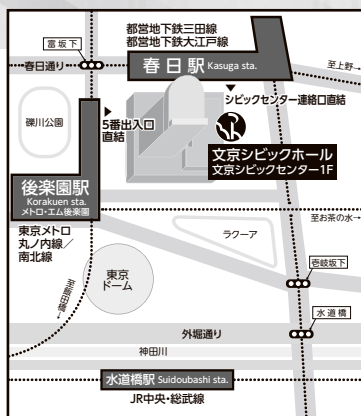
細田 啓信 (岩手めんこいテレビ)

高橋 由稀 (2021ミスさんざん踊り)

工藤きづな (レポーター)

口上

盛岡市長、文京区長のほか本公演実行委員から、ご来場の皆様に賑々しくご挨拶を申し上げます。



時代物

「一握の砂 啄木という生き方」

若き天才詩人・石川啄木と堀合節子の結婚式の当日。そこに肝心の花婿の姿はなかった。節子は周囲の反対を押し切り、花婿のいない結婚式を行う。数日後、ようやく現れた啄木と節子との新婚生活が始まる。節子だけでなく、年老いた両親と妹、生まれたばかりの娘を養う責任が、まだ二十歳そこそこの啄木の肩にのしかかる。職を求めて北海道へ渡った啄木は、函館、札幌、小樽、釧路とさすらう。やがて心が満たされない生活には、とても耐えられないと悟って上京。家族を呼び寄せる金を作るため、死に物狂いで小説を書きまくるが、原稿はまったく売れない。理想と現実の狭間で、もがき苦しむ啄木に、果たして明日はやってくるのか。

■脚本：道又 力

■演出：安達 和平 (劇団わらび座)

■キャスト

高橋 克彦 (作家) ※声の出演

金田一秀穂 (言語学者)

石川 真一 (石川啄木 御曾孫)

井沢 元彦 (作家)

内館 牧子 (脚本家)

ロバート・キャンベル (日本文学研究者)

成澤 廣修 (文京区長)

谷藤 裕明 (盛岡市長)

藤田 弓子 (女優)

安藤 和津 (エッセイスト)

羽田 圭介 (作家)

北上 秋彦 (作家)

平谷 美樹 (作家)

道又 力 (脚本家)

澤口たまみ (エッセイスト)

松本 伸 (写真家)

そのだつくし (漫画家)

綿世 景 (作家)

南海 遊 (作家)

浅川 貴道 (読売新聞長野支局)

阿部 知彦 (岩手日報社)

浅見 智 (IBC岩手放送)

石橋 美希 (岩手めんこいテレビ)

阿部 沙織 (エフエム岩手)

千葉 彩楓 (2022ミスさんざん踊り)

※出演者は都合により変更となる場合があります。予めご了承ください。

■舞台監督/㈱アクト・ディヴァイス

■舞台美術/長内努

■大道具・置道具/㈱ベース

■照明・音響/㈱アクト・ディヴァイス

■かつら・メイク・衣裳 (時代物) / 橋本かつら店・葛尾和子

■スタッフ協力/盛岡演劇協会ほか

■制作協力/オフィス・REN

ご来場のお客様へのお願い

本公演の情報を掲載している盛岡市公式ホームページにおきまして、会場の新型コロナウイルス感染症対策につきましても最新の情報をご案内いたします。ご来場前に必ずご確認ください。



文京シビックホール 〒112-0003 東京都文京区春日1丁目16-21 文京シビックセンター1階

■交通アクセス ◎東京メトロ丸ノ内線・南北線 後楽園駅(5番出入口)直結

◎都営地下鉄三田線・大江戸線 春日駅(文京シビックセンター連絡口)直結

◎JR中央・総武線水道橋駅(東口)徒歩約10分

<https://www.b-academy.jp/>

[主催] 盛岡文士劇東京公演実行委員会

[共催] 盛岡市、文京区、盛岡市文化振興事業団、岩手県文化振興事業団、岩手日報社、IBC岩手放送、テレビ岩手、岩手めんこいテレビ、岩手朝日テレビ、エフエム岩手、盛岡タイムス社、岩手ケーブルテレビジョン、ラヂオ・もりおか、岩手県芸術文化協会、盛岡芸術協会、盛岡商工会議所